

第6次広尾町まちづくり推進総合計画 前期（R3～R7）

重点プロジェクト 進捗状況確認シート

作成年月 R 6 年 11 月

重点P	1	広尾の魅力発信プロジェクト ～広尾の魅力や情報が集まる拠点の創出～
担当課		企画課、水産商工観光課、農林課
目標		日本で一番、また来たくなるまちをめざす！

1. 方向性

広尾町の特産品やサンタランドの魅力などをつめこんだ拠点（観光交流施設）をつくる。飲食、情報、物が集約され、町外客だけでなく、子どもから高齢者まで多くの町民が集い楽しむ場所とする。また、町民による地域内消費も喚起する。

2. 概要

町外客が、特産品を買い求めたり、様々な情報を得たり、食事や飲み物を味わい、くつろげる場を提供することにより、「また来たくなるまち」をめざす。加えて、町民の利用を想定し、複合的な要素を盛り込んだ拠点としての機能を併せ持つ施設をめざす。（例：本×カフェ×パン×子供の遊び場×コンビニなど）

3. 具体的な方法

主な事業・取組	町外の人や町民の交流拠点となる、特産品を販売する施設をつくる（ねらい）まちの中心部に人を集める			R5(2023)年度実績額	10,598千円
細事業名Ⅰ	観光交流施設建設事業	実	重点-1	担当課	企画課
細事業名Ⅱ	地域「食資源」活用促進事業	実	重点-3	担当課	水産商工観光課
細事業名Ⅲ	集いの杜プロジェクト	実	1-1-③-41	担当課	農林課・企画課・水産商工観光課・社会教育課
R5(2023)年度実施内容	(Ⅰ)未実施 (Ⅱ)地域おこし協力隊の取組みとして、プロジェクト会議や町民に対して開発レシピの公開や試験販売を実施した。【商工観光係】 (Ⅲ)旧野塚小学校を再生し、広尾町の林業を主体とした一次産業の体験や自然とふれあうことができる場を創出する。また、サンタランドウツのPRや製品製造の拠点とし、新たな産業や教育文化の振興を図る。				
進捗状況と課題	(Ⅰ)公園整備構想において公園敷地内に町民交流施設を併設する方向性となったことから、観光交流施設の建設についてはまちづくり計画の後期に道の駅建設も含めて検討する必要がある。【企画防災係】 (Ⅱ)「サンタのつぶやき」や「噛む噛む昆布」などの町民向けの試食や試験販売まで実施できた。今後特産品の販売取扱などについて検討する必要がある。【商工観光係】 (Ⅲ)令和4～5年度で改修工事を実施。地域おこし協力隊を3名雇用する（令和5年度は1名）。【農政林務係】				

4. プロジェクトの評価（担当課における評価）

Ⅰ：プロジェクトの達成度（まちの現状と課題を解決するため、目指す方向に施策が進んでいるか）

	A 想定以上に進んでいる	評価理由	- 道の駅新設との兼ね合いもあり、観光交流施設の建設については腰を据えて検討していく必要がある。（企画課長） - 地域おこし協力隊の取組みにより特産品試作品の公開まで実施できた。（水産商工観光課長） - 地域おこし協力隊を中心とした各課及び関係機関の連携により、想定どおりに進んでいると評価できる。（農林課長）
農商	B 想定どおりに進んでいる		
企	C 少し遅れている		
	D 大幅に遅れている		

Ⅱ：プロジェクトの有効性（プロジェクトにかかる事業の構成や規模は適切であったか、成果は有効であったか）

	A 有効であった	評価理由	- プロジェクト未着手により、現時点で有効性の評価は不可能である。（企画課長） - 試作の段階であり、特産品としての形は見えていないため、評価は不可能である。（水産商工観光課長） - 一部オープンし、町民が集う交流の場として、一定の役割を果たすことができた。（農林課長）
農	B 概ね有効であった		
	C あまり有効でなかった		
	D 有効でなかった		

※プロジェクトの達成度、有効性の評価理由は、プロジェクト全体の評価であることから課長職若しくは課長補佐職が記載すること。

5. プロジェクトの総合評価

広尾の 魅力 発信 重点P①	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
	一次評価（担当課の評価）				
	C	C	B		
	二次評価（主管者会議の評価）				
	C	C	C		
	外部評価（まちづくり推進計画委員会による評価）				
	C	C	C		

評価の区分

- A 達成度、有効性、成果が大いに認められ、目標達成に向け順調に進んでいる。
- B 事業が概ね順調に進んでおり、目標年次までに達成できる見込みである。
- C 結果が表れていないが、目標達成に向け取組を進めることができている。
- D 事業の進捗が遅れており、目標年次までに達成できない可能性がある。
- E 達成度、有効性が見られず、取組内容や目標の見直しが必要な状況である。

付帯 意見	年 度	主管者会議の意見	まちづくり推進計画委員会の意見
	R3(2021)		
	R4(2022)		
	R5(2023)	集いの杜はプレオープン段階であり、また、まちの中心部に人を集める施設となっていない。	
	R6(2024)		
	R7(2025)		

第6次広尾町まちづくり推進総合計画 前期（R3～R7）
重点プロジェクト 進捗状況確認シート

作成年月 R 6 年 11 月

重点P	2	「広尾の食資源」開発、伝承プロジェクト ～新たな魅力の創出と今あるものの魅力の再発見～
担当課		水産商工観光課、農林課、健康管理センター
目 標		日本で一番、食べ物がおいしいまちをめざす！

1. 方向性

広尾町の食資源の優位性（水産物：漁場が近いので鮮度が良く、魚種が豊富なこと。農畜産物：良質な生乳を生産していることなど）を活かした新たな特産品を開発するとともに、町の食文化を次世代の町民に伝承し、食べ物がおいしい町としての知名度を上げる。

2. 概要

広尾町の水産物や農畜産物を原料とした新たな特産品を開発し、商品化・ブランド化を図ることにより、食資源の豊富さや質の高さをアピールするとともに、広尾町の食文化（魚を使った漬物、保存食など）を次世代の町民に伝承することで、地域の食文化を守り、広尾町の食の魅力を町内外に伝え広める。

3. 具体的な方法

主な事業・取組	新たな特産品（加工品）や鮮魚をブランド化した商品を開発し、観光交流施設での販売、飲食店での提供、ふるさと納税の返礼品などで幅広く活用する。			R5(2023)年度実績額	4,071千円
細事業名Ⅰ	地域「食資源」活用促進事業	実	重点－3	担当課	水産商工観光課
細事業名Ⅱ		実		担当課	
細事業名Ⅲ		実		担当課	
R5(2023)年度実施内容	地域おこし協力隊の取組みとして、プロジェクト会議や町民に対して開発レシピの公開や試験販売を実施した。				
進捗状況と課題	「サンタのつぶやき」や「噛む噛む昆布」などの町民向けの試食や試験販売まで実施できた。今後特産品の販売取扱などについて検討する必要がある。				

主な事業・取組	広尾の食文化を伝承する料理講座を定期開催する。			R5(2023)年度実績額	45千円
細事業名Ⅰ	食資源伝承に資する食育教室	実		担当課	健康管理センター
細事業名Ⅱ		実		担当課	水産商工観光課
細事業名Ⅲ		実		担当課	
R5(2023)年度実施内容	・6月1日にホッキさばき体験会を実施。町民14名が参加。 ・1月11・12日に子ども料理教室（お魚体験会）を実施。小学生延べ25名が参加。 両教室とも漁協女性部や漁師などの漁業関係者を講師に迎え調理実習を実施した。				
進捗状況と課題	（Ⅰ）ピロツーズ推進協議会と連携し、魚のさばき方などを体験する事業を実施。地元食材を活用し、調理、加工等の技術を漁業関係者から直接学ぶことにより、食文化の継承への理解や関心の高まりが期待できる。【保健推進係】 （Ⅱ）継続して健康管理センターと連携した上で開催する。【商工観光係】				

4. プロジェクトの評価（担当課における評価）

I：プロジェクトの達成度（まちの現状と課題を解決するため、目指す方向に施策が進んでいるか）

	A 想定以上に進んでいる	評価理由	・地域おこし協力隊の取組みにより特産品試作品の公開まで実施できた。（水産商工観光課長） ・関係団体や食生活サポーター、地域おこし協力隊と連携し、食文化の伝承事業として料理講座を開催した（健康管理センター長）
商健	B 想定どおりに進んでいる		
	C 少し遅れている		
	D 大幅に遅れている		

II：プロジェクトの有効性（プロジェクトにかかる事業の構成や規模は適切であったか、成果は有効であったか）

	A 有効であった	評価理由	・一部商品化され、流通されている。（水産商工観光課長） ・地元の食資源を伝承することができ、概ね有効であった（健康管理センター長）
商健	B 概ね有効であった		
	C あまり有効でなかった		
	D 有効でなかった		

※プロジェクトの達成度、有効性の評価理由は、プロジェクト全体の評価であることから課長職若しくは課長補佐職が記載すること。

5. プロジェクトの総合評価

「広尾の食資源」 開発、伝承 重点P②	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
	一次評価（担当課の評価）				
	C	B	B		
	二次評価（主管者会議の評価）				
	C	B	B		
	外部評価（まちづくり推進計画委員会による評価）				
	C	B	B		

評価の区分

- A 達成度、有効性、成果が大いに認められ、目標達成に向け順調に進んでいる。
- B 事業が概ね順調に進んでおり、目標年次までに達成できる見込みである。
- C 結果が表れていないが、目標達成に向け取組を進めることができている。
- D 事業の進捗が遅れており、目標年次までに達成できない可能性がある。
- E 達成度、有効性が見られず、取組内容や目標の見直しが必要な状況である。

付帯意見	年 度	主管者会議の意見	まちづくり推進計画委員会の意見
	R3(2021)		
	R4(2022)		
	R5(2023)		
	R6(2024)		
	R7(2025)		

第6次広尾町まちづくり推進総合計画 前期（R3～R7）
重点プロジェクト 進捗状況確認シート

作成年月 R 6 年 11 月

重点P	3	「サンタランド」の魅力向上プロジェクト ～ここにしかない「サンタランド」の魅力に磨きをかける～
担当課		水産商工観光課、企画課
目 標		日本で唯一、サンタランドの魅力にあふれるまちをめざす！

1. 方向性

「サンタランドのまち」が国内唯一であることの価値を町民が再認識し、まちぐるみでみんなが楽しめるような取組を通じ、「サンタランド」を楽しみ、その魅力に磨きをかける。

2. 概要

既存のサンタランド事業を継続し、内容を充実させて発信力を強化するとともに、話題性のある取組を新たに企画し、まちぐるみで取り組むことにより、サンタランドの魅力や精神、イメージを町内外にアピールする。また、写真映えするシンボルスポットを整備するなど、中高生・若者の興味を惹くような取組を織り交ぜ、サンタランドの魅力をさらに向上させる。

3. 具体的な方法

主な事業・取組	既存事業（サンタメール、点灯式、ウェルカムサンタランドなど）は内容を充実させて魅力を高めるとともに発信力をさらに強化する。（例：新たに大人向けのサンタメールを作るなど）			R5(2023)年度実績額	7,448千円
細事業名Ⅰ	サンタランドの魅力向上プロジェクト	実	重点－4	担当課	水産商工観光課
	（イルミネーション事業）	実	1-2-②-28	担当課	
	（サンタランドツリー点灯式）	実	1-2-②-28	担当課	
	（広尾町北方圏交流振興会事業）	実	1-2-②-28	担当課	
R5(2023)年度実施内容	・サンタカード事業を継続的に実施。子どもの夢を応援するプロジェクトにより企業の参画も実施された。 ・ツリー点灯式は通常開催に戻り、同時に動画配信も実施した。 ・サンタカードは昨年同様、町にゆかりのある「おおば比呂司」氏のイラストを使用した。				
進捗状況と課題	サンタカードの申込みフォームを改善しインターネット申込みが増加し、全体的には微増だった。印刷代の高騰や郵便料の値上げにより、次年度以降カードの申込金額の変更を検討しなければならない。【サンタランド係】				

主な事業・取組	若い世代の興味を惹く撮影スポットを創る。（例：イルミネーションの森の創設、サッポロファクトリー規模のジャンボツリーの設置など）			R5(2023)年度実績額	4,537千円
細事業名Ⅰ	サンタランドの魅力向上プロジェクト	実	重点－4	担当課	水産商工観光課
	（イルミネーション事業）	実	1-2-②-28	担当課	
		実		担当課	
		実		担当課	
R5(2023)年度実施内容	・イルミネーションの配色や電球の付け方など、委託事業者に指導の上行った。 ・農林課主体によるサンタランドウッドランタンを1万個に増加し、ゾーンを確立した。				
進捗状況と課題	イルミネーションの刷新やウッドランタンゾーンの確立により、話題性と魅力向上につながったといえる。【サンタランド係】				

主な事業・取組	町民が一丸となって取り組むことができる話題性のある事業を実施する。(例:クリスマスイヴの日に、町内の事業所の人全員クリスマスのコスチュームで仕事をするなど)			R5(2023)年度実績額	3,140千円
細事業名Ⅰ		実		担当課	水産商工観光課
細事業名Ⅱ	広尾町ウッドイルミネーション事業	実	—	担当課	農林課
細事業名Ⅲ		実		担当課	
R5(2023)年度実施内容	木育フェスによるウッドイルミネーション作成や、町民みらい会議でのサンタランドの検討等を行った。				
進捗状況と課題	令和5年度の町民みらい会議のテーマを「サンタランドの魅力向上」とし、そこで出た町民からの意見・アイデアを取り入れながら、事業の検討を進めていく。【サンタランド係】				

主な事業・取組	サンタランドのオリジナル商品を制作する。(町民や町外の方のアイデアを取り入れたり、デザインを募集したりする)			R5(2023)年度実績額	0千円
細事業名Ⅰ		実		担当課	水産商工観光課
細事業名Ⅱ		実		担当課	
細事業名Ⅲ		実		担当課	
R5(2023)年度実施内容	大丸山森林公園「サンタの家」を指定管理事業者に委託し、独自に商品開発した。				
進捗状況と課題	指定管理事業者による商品開発を継続して行っていく。【サンタランド係】				

4. プロジェクトの評価（担当課における評価）

I:プロジェクトの達成度（まちの現状と課題を解決するため、目指す方向に施策が進んでいるか）

	A 想定以上に進んでいる	評価理由	「町民みらい会議」による町民提案により次年度迎える認定40周年記念事業のアイデアを吸い上げた。ウッドランタン製作も多くの町民の協力を得て行われ、まち全体でサンタランドを盛り上げる取組につながった。(水産商工観光課長)
○	B 想定どおりに進んでいる		
	C 少し遅れている		
	D 大幅に遅れている		

II:プロジェクトの有効性（プロジェクトにかかる事業の構成や規模は適切であったか、成果は有効であったか）

	A 有効であった	評価理由	サンタカードの申込み件数は微増であったが、大丸山森林公園の入場者数が過去最高となるなど、民間と連携した魅力向上の取組を進めることができた。(水産商工観光課長)
○	B 概ね有効であった		
	C あまり有効でなかった		
	D 有効でなかった		

※プロジェクトの達成度、有効性の評価理由は、プロジェクト全体の評価であることから課長職若しくは課長補佐職が記載すること。

5. プロジェクトの総合評価

「サンタランド」 の 魅力 向上 重点 P③	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
	一次評価（担当課の評価）				
	B	B	B		
	二次評価（主管者会議の評価）				
	B	B	B		
	外部評価（まちづくり推進計画委員会による評価）				
	B	B	B		

評価の区分

- A 達成度、有効性、成果が大いに認められ、目標達成に向け順調に進んでいる。
- B 事業が概ね順調に進んでおり、目標年次までに達成できる見込みである。
- C 結果が表れていないが、目標達成に向け取組を進めることができている。
- D 事業の進捗が遅れており、目標年次までに達成できない可能性がある。
- E 達成度、有効性が見られず、取組内容や目標の見直しが必要な状況である。

付 帯 意 見	年 度	主管者会議の意見	まちづくり推進計画委員会の意見
	R3(2021)		
	R4(2022)		
	R5(2023)		
	R6(2024)		
	R7(2025)		

＜R4施策評価点検による政策等プロジェクト委員会の評価変更理由＞

担当課としては、プロジェクトを進めるための会議の未実施とサンタメールの通数の減少を理由に昨年度から評価を後退させているが、取組内容自体は昨年と同様、または前進している部分もある。メール通数減はあくまで結果であり、取組は推進できていると判断することから昨年と同じ「B」評価とする。

第6次広尾町まちづくり推進総合計画 前期（R3～R7）
重点プロジェクト 進捗状況確認シート

作成年月 R 6 年 11 月

重点P	4	ひろお子育て力向上プロジェクト ～地域のみんながお父さん、お母さん～
担当課		保健福祉課子育て支援室
目 標		日本で一番、安心して子どもを育てられるまちをめざす！

1. 方向性

隣近所や町内会の結びつきを強くし、地域ぐるみで子育てを支える体制を整えるとともに、遊ぶ場所の整備や保育サービスの充実などにより、安心して子育てできる環境をつくる。

2. 概要

一人で子育ての悩みを抱え込んでいる人に対し、子育てOG・OBを活用した子育て支援ボランティアの組織を育成するなど、地域ぐるみで子育てを支える体制を整備する。また、要望の多い「子どもが安全にのびのび遊べる場所」の整備や保育サービスの充実を図り、子育て支援のさらなる充実を図る。

3. 具体的な方法

主な事業・取組	支援を行うボランティアなどの人材を確保し、組織化したうえで、子どもの預かりを希望する人との連絡調整を行う「ファミリー・サポート・センター」を導入する。			R5(2023)年度実績額	179千円
細事業名Ⅰ	ひろお子育て力向上プロジェクト	実	重点-5	担当課	保健福祉課子育て支援室
	(ファミリー・サポート・センター導入事業)	実	2-1-①-3	担当課	
		実		担当課	
		実		担当課	
R5(2023)年度実施内容	昨年度に引き続きサポート会員の交流会を行ったほか、新たにサポート会員と依頼会員家族との交流会を開催した。また、制度周知とサポート会員の募集を町広報等で行い、事業の定着を図った。				
進捗状況と課題	令和4年度に事業を開始したが、サポート会員の確保に課題がある。引き続き制度周知及び会員の募集を行い、事業の定着を図る。【児童係】				

主な事業・取組	居住状況に応じた子どもの遊び場(屋外、室内)の整備を推進する。			R5(2023)年度実績額	66,363千円
細事業名Ⅰ	ひろお防災公園(仮称)整備事業	実	4-3-②-45	担当課	企画課・建設水道課
細事業名Ⅱ	ひろお防災公園(仮称)管理運営事業(R8～)	実	4-3-②-46	担当課	企画課・建設水道課
細事業名Ⅲ		実		担当課	
R5(2023)年度実施内容	新たな公園整備にかかる実施設計、町民交流施設の基本設計、必要な用地の買収等を行った。整備事業費や公園の規模等について疑問の声が上がり、町議会が設置した調査特別委員会から提言書が提出されたことに伴い、令和6年度の整備事業をいったん取り止め、町民の意見を改めて聴いた上で整備内容の再検討を行うこととなった。				
進捗状況と課題	令和6年度はアンケートや説明会などで町民の意見を確認し、整備内容の再検討を行う。令和7年度予算に整備費を計上できるよう、アンケート結果などを踏まえて修正案を作成し、議会との調整を進めていく。【企画防災係・土木係】				

主な事業・取組	病児保育や延長保育など保育サービスの充実を図る。			R5(2023)年度実績額	0千円
細事業名Ⅰ		実		担当課	保健福祉課子育て支援室
細事業名Ⅱ		実		担当課	
細事業名Ⅲ		実		担当課	
R5(2023)年度実施内容	※未実施				
進捗状況と課題	多様な保育ニーズに応えるため、保育士や支援員等の人材を確保したうえで、保育サービスの充実について検討していく。【児童係】				

主な事業・取組	「出産祝い金制度」を創設する。			R5(2023)年度実績額	1,000千円
細事業名Ⅰ	出産祝い金支給事業	実	2-1-①-2	担当課	保健福祉課子育て支援室
細事業名Ⅱ		実		担当課	
細事業名Ⅲ		実		担当課	
R5(2023)年度実施内容	出生した子と生計を同じくする保護者へ祝い金(第1子5万円、第2子5万円、第3子以降10万円)を支給し、子育て家庭の支援を図った。				
進捗状況と課題	子どもの誕生を祝うとともに、子育て世帯の経済的負担を軽減し、安心して子どもを産み育てられるよう、子育て家庭の支援が図られた。【児童係】				

主な事業・取組	子育て世代包括支援センターの充実を図る。			R5(2023)年度実績額	852千円
細事業名Ⅰ	保健師等専門職の配置	実	—	担当課	保健福祉課子育て支援室
細事業名Ⅱ	養育支援訪問事業	実	—	担当課	保健福祉課子育て支援室
細事業名Ⅲ		実		担当課	
R5(2023)年度実施内容	令和2年度開設。保健師等専門職を9人、事務職を1人兼務配置。 令和3年度に保健師を専任で1人配置。あわせて児童の養育について支援が必要であると認められる保護者に対し、相談、助言等による支援を行う養育支援訪問事業に家事援助を新たに追加した。令和4年度、子どもとその家庭及び妊産婦に関する支援を一体的に行う子ども家庭総合支援拠点を設置した。				
進捗状況と課題	令和6年4月からは子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点の機能を一体化させたこども家庭センターの設置が努力義務化される。【子ども福祉係】				

4. プロジェクトの評価（担当課における評価）

I：プロジェクトの達成度（まちの現状と課題を解決するため、目指す方向に施策が進んでいるか）

子 企	A 想定以上に進んでいる	評価理由	・病児保育や延長保育の拡大に関して、人材が確保ができず未実施となっているが、それ以外の事業に関しては想定どおり進んでいるので、全体的にも進んでいると評価する。（子育て支援室長） ・議会からの提言書を受け、令和6年度は町民の意見を聴き、整備内容を再検討することになったため、当初の事業スケジュールから遅れが生じている。（企画課長）
	B 想定どおりに進んでいる		
	C 少し遅れている		
	D 大幅に遅れている		

II：プロジェクトの有効性（プロジェクトにかかる事業の構成や規模は適切であったか、成果は有効であったか）

子 企	A 有効であった	評価理由	・これからの事業もあり、まだまだ成果としては出ていない事業もあるが、広尾町の規模に見合った内容となっており、適切であると判断する。（子育て支援室長） ・公園の利便性向上に向けて多くの町民の意見を聞き、後年次の公園整備に反映させることで、町民満足度の高い公園づくりを進めることができる。（企画課長）
	B 概ね有効であった		
	C あまり有効でなかった		
	D 有効でなかった		

※プロジェクトの達成度、有効性の評価理由は、プロジェクト全体の評価であることから課長職若しくは課長補佐職が記載すること。

5. プロジェクトの総合評価

ひろ お 向 上 重 点 P ④	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
	一次評価（担当課の評価）				
	B	B	B		
	二次評価（主管者会議の評価）				
	B	B	B		
	外部評価（まちづくり推進計画委員会による評価）				
	B	B	B		

評価の区分

- A 達成度、有効性、成果が大いに認められ、目標達成に向け順調に進んでいる。
- B 事業が概ね順調に進んでおり、目標年次までに達成できる見込みである。
- C 結果が表れていないが、目標達成に向け取組を進めることができている。
- D 事業の進捗が遅れており、目標年次までに達成できない可能性がある。
- E 達成度、有効性が見られず、取組内容や目標の見直しが必要な状況である。

付 帯 意 見	年 度	主管者会議の意見	まちづくり推進計画委員会の意見
	R3(2021)		
	R4(2022)		
	R5(2023)		
	R6(2024)		
	R7(2025)		

第6次広尾町まちづくり推進総合計画 前期（R3～R7）
重点プロジェクト 進捗状況確認シート

作成年月 R 6 年 11 月

重点P	5	自分大好きプロジェクト ～関わり、交わり、認めて、育てる 地域の宝～
担当課	教育委員会管理課、社会教育課	
目 標	日本で一番、子どもが自分を好きになれるまちをめざす！	

1. 方向性

幼児期から自己肯定感を高め、小・中・高校では自己実現、進路実現に向けた取組を行い、人格形成の基礎を養う。これらの取組を地域で支えることでまち全体の生涯学習の推進につなげる。

2. 概要

子どもたちが自分の価値や存在意義を肯定し、夢や希望あふれる未来に向かうよう、学校・家庭・地域が「目指す子ども像」を共有し、実現に向け連携した取組を行う。学校では、個人の資質、能力（学力）の向上に努め、家庭では積極的に子どものよさを認める環境づくりを実践する。また、地域では行事等で子どもと交流を図りやすい環境づくりを進めるなど、まち全体で子どもたちに温かい眼差しを向ける。

3. 具体的な方法

主な事業・取組	各小中学校の学校運営協議会により、保護者や地域住民等の学校経営への参画や学校運営への支援・協力を促進する。		R5(2023)年度実績額	577千円
細事業名Ⅰ	学校運営協議会運営事業	実	—	担当課 管理課
細事業名Ⅱ		実		担当課
細事業名Ⅲ		実		担当課
R5(2023)年度実施内容	町民の力を結集し、地域が一体となってより良い学校づくりを推進する事業。学校運営協議会を各学校年4回開催した。			
進捗状況と課題	学校と保護者及び地域住民等の信頼関係を深め、活発な熟議を通して、学校運営や運営に必要な支援に関して協議を実施している。【学校教育係】			

主な事業・取組	「広尾っ子応援団」による応援メッセージ事業や放課後読書等ふれあい広場の実施により、児童生徒の自己肯定感を育むとともに、放課後の安全安心な居場所を提供する。		R5(2023)年度実績額	5,357千円
細事業名Ⅰ	広尾っ子応援団事業【再掲】	実	3-1-②-1	担当課 社会教育課
細事業名Ⅱ		実		担当課
細事業名Ⅲ		実		担当課
R5(2023)年度実施内容	CSコーディネーター1名配置、応援メッセージ活動（メッセージ16通、発信12回）、放課後読書等ふれあい広場（65回実施）、学校支援（144回）			
進捗状況と課題	小学校内にふれあい広場の活動場所を増やし、児童が参加しやすい環境づくりをした。【社会教育係】			

4. プロジェクトの評価（担当課における評価）

I：プロジェクトの達成度（まちの現状と課題を解決するため、目指す方向に施策が進んでいるか）

	A 想定以上に進んでいる	評価理由	学校運営協議会を各学校年4回開催しており想定どおりの進捗である。 (管理課長) 放課後等読書ふれあい広場や、町民等から届けられた応援メッセージを毎月発信することができた。(社会教育課長)
管社	B 想定どおりに進んでいる		
	C 少し遅れている		
	D 大幅に遅れている		

II：プロジェクトの有効性（プロジェクトにかかる事業の構成や規模は適切であったか、成果は有効であったか）

	A 有効であった	評価理由	学校運営協議会を各学校年4回開催し、保護者や地域住民等から学校経営への参画や学校運営への支援・協力を得ることができた。(管理課長) 応援メッセージをフィードバックすることで、児童生徒が自らの価値・存在意義を認識することにつながるとともに、町民が児童生徒を意識して生活することで、地域での見守りにもなるとされる。(社会教育課長)
管社	B 概ね有効であった		
	C あまり有効でなかった		
	D 有効でなかった		

※プロジェクトの達成度、有効性の評価理由は、プロジェクト全体の評価であることから課長職若しくは課長補佐職が記載すること。

5. プロジェクトの総合評価

自分 重点 大好き P⑤	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
	一次評価（担当課の評価）				
	B	B	B		
	二次評価（主管者会議の評価）				
	B	B	B		
	外部評価（まちづくり推進計画委員会による評価）				
	B	B	B		

評価の区分

- A 達成度、有効性、成果が大いに認められ、目標達成に向け順調に進んでいる。
- B 事業が概ね順調に進んでおり、目標年次までに達成できる見込みである。
- C 結果が表れていないが、目標達成に向け取組を進めることができている。
- D 事業の進捗が遅れており、目標年次までに達成できない可能性がある。
- E 達成度、有効性が見られず、取組内容や目標の見直しが必要な状況である。

付帯意見	年 度	主管者会議の意見	まちづくり推進計画委員会の意見
	R3(2021)		
	R4(2022)		
	R5(2023)		
	R6(2024)		
	R7(2025)		

第6次広尾町まちづくり推進総合計画 前期（R3～R7）
重点プロジェクト 進捗状況確認シート

作成年月 R 6 年 11 月

重点P	6	「賑わいと健康」創出プロジェクト ～豊かな自然の中で、健康増進と体験型観光を楽しむ～
担当課		水産商工観光課、企画課、健康管理センター、農林課、教育委員会社会教育課
目 標		日本で一番、田舎を楽しむまちをめざす！

1. 方向性

自然など地域資源を生かした体験型観光を創出するとともに、身近な自然を生かした町民の健康づくりを推進する。

2. 概要

自然など地域資源を活かした体験メニュー（例：サーフィン、農山漁村体験、潮干狩り、地引き網、釣り、鹿撃ち、山菜採りなど）を開発し、町外から訪れる方々に体験型観光を楽しんでいただくとともに、身近な自然を生かした健康づくり活動（ウォーキング、ゴミ拾い、自然ガイド、農山漁村体験など）を行い、豊かな自然環境を生かしたまちの賑わいの創出と、町民が楽しみながら健康増進を図る取組を推進する。

3. 具体的な方法

主な事業・取組	主に町外の人を対象とした体験型観光の体験メニュー（例：サーフィン、農山漁村体験、潮干狩り、地引き網、釣り、山菜採り、鹿撃ちくジビエなど）を開発する。			R5(2023)年度実績額	13,522千円
細事業名Ⅰ	体験型観光推進事業	実	1-2-②-27	担当課	水産商工観光課
細事業名Ⅱ	集いの杜プロジェクト	実	1-1-③-41	担当課	農林課・企画課・水産商工観光課・社会教育課
細事業名Ⅲ	移住体験住宅貸付事業（体験メニュー提供分）	実	5-2-②-12	担当課	企画課
細事業名Ⅳ	広尾町活き生きプロジェクト交付金（体験メニュー提供分）	実	5-2-②-17	担当課	企画課
R5(2023)年度実施内容	(Ⅰ)地域おこし協力隊とピロロツーリズム推進協議会が連携し、体験型観光を軸にした町内外向けプログラムを企画・実行した。【商工観光係】 (Ⅱ)旧野塚小学校の改修工事を進め、広尾町の林業を主体とした一次産業の体験や自然とふれあうことができる場を創出する。5年度は一部オープンした（カフェスペース、コワーキングスペース）。 (Ⅲ・Ⅳ)移住体験住宅利用者やふるさとワーキングホリデー参加者などに対し、まちの産業や自然を活用した体験メニューを提供し、利用を促した。				
進捗状況と課題	(Ⅰ)補助金を活用したプログラム造成を観光協会が今後も行っていく。【商工観光係】 (Ⅱ)令和4～5年度で改修工事の実施。プロジェクトにかかる地域おこし協力隊を3名任用する（令和5年度は1名任用）。【農政林務係】 (Ⅲ・Ⅳ)町外から来町する各種移住体験事業利用者に対し様々な体験メニューを提供することができた。今後は、体験型観光を推進する「ピロロツーリズム推進協議会」とも連携しながら、まち全体の体験型観光の充実を図り、利用者の満足度を高める必要がある。【企画防災係】				

主な事業・取組	主に町民を対象とした健康づくり事業（例：ウォーキング、サイクリング、ゴミ拾い、自然ガイド、農山漁村体験など）を企画して実施する。			R5(2023)年度実績額	0千円
細事業名Ⅰ	身近な自然を生かした健康づくり活動	実	2-3-①	担当課	健康管理センター
細事業名Ⅱ	フットパスコースの確立	実		担当課	水産商工観光課
細事業名Ⅲ		実		担当課	
R5(2023)年度実施内容	(Ⅰ)健康推進部連絡会、ピロロツーリズム推進協議会と共同で、10月25日にヨガ体験会を実施。町民19名が参加。【保健推進係】 (Ⅱ)補助金を活用しフットパスコースを確立した。【商工観光係】				
進捗状況と課題	(Ⅰ)運動を無理なく生活に取り入れる工夫等について知る機会を提供できた。今後もピロロツーリズム推進協議会、他部署との連携を図りながら、健康づくり事業を推進していく。【保健推進係】 (Ⅱ)設定したフットパスコースは健康増進や学習活動など、広い分野での活用を検討する。【商工観光係】				

4. プロジェクトの評価（担当課における評価）

I：プロジェクトの達成度（まちの現状と課題を解決するため、目指す方向に施策が進んでいるか）

商農 企	A 想定以上に進んでいる	評価理由	・ピロツーツリズム推進協議会と地域おこし協力隊が連携し、体験型観光のプログラム造成など積極的に実施した。（水産商工観光課長） ・地域おこし協力隊を中心とした各課及び関係機関の連携により、想定通りに進んでいると評価できる。（農林課長） ・官民連携により様々な取組が進んでおり、着実に進んでいると評価できる。（企画課長）
	B 想定どおりに進んでいる		
	C 少し遅れている		
	D 大幅に遅れている		

II：プロジェクトの有効性（プロジェクトにかかる事業の構成や規模は適切であったか、成果は有効であったか）

商農 企	A 有効であった	評価理由	・北海道観光振興機構の補助金を活用した今までにない取組みを行い、成果が上がっている。（水産商工観光課長） ・一部オープンし、町民が集う交流の場として、一定の役割を果たすことができた。（農林課長） ・広尾町の魅力や特色を生かした体験メニューを提供しており、利用者に対する満足度も高いため有効と判断する。（企画課長）
	B 概ね有効であった		
	C あまり有効でなかった		
	D 有効でなかった		

※プロジェクトの達成度、有効性の評価理由は、プロジェクト全体の評価であることから課長職若しくは課長補佐職が記載すること。

5. プロジェクトの総合評価

「賑わい創出と健康」	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
	一次評価（担当課の評価）				
	C	B	B		
	二次評価（主管者会議の評価）				
	C	B	B		
	外部評価（まちづくり推進計画委員会による評価）				
	C	B	B		

評価の区分

- A 達成度、有効性、成果が大いに認められ、目標達成に向け順調に進んでいる。
- B 事業が概ね順調に進んでおり、目標年次までに達成できる見込みである。
- C 結果が表れていないが、目標達成に向け取組を進めることができている。
- D 事業の進捗が遅れており、目標年次までに達成できない可能性がある。
- E 達成度、有効性が見られず、取組内容や目標の見直しが必要な状況である。

付帯意見	年 度	主管者会議の意見	まちづくり推進計画委員会の意見
	R3(2021)		
	R4(2022)		
	R5(2023)		
	R6(2024)		
	R7(2025)		

第6次広尾町まちづくり推進総合計画 前期（R3～R7）
重点プロジェクト 進捗状況確認シート

作成年月 R 6 年 11 月

重点P	7	買い物利便性向上プロジェクト ～誰もが町内で買い物しやすい環境をつくる～
担当課		保健福祉課、企画課、水産商工観光課
目 標		日本で一番、町民が買い物に困らないまちをめざす！

1. 方向性

町民が地域内で買い物しやすい環境を整えるとともに、町内小売店のサービスや商品（以下、「商品等」）の魅力を高め、情報発信を充実させることにより、地域内消費を喚起する。

2. 概要

広尾ならではの商品等に磨きをかけ、その魅力を高めるとともに、公共交通の利便性を向上させながら、宅配サービスや買い物代行サービス、移動販売など買い物支援サービスの導入や情報発信の充実を図り、町民の買い物の利便性を総合的に高める。

3. 具体的な方法

主な事業・取組	外部人材の意見を取り入れ、町内小売店の商品等の魅力向上（既存の商品の質の向上、パッケージの改善、新商品の開発など）に取り組む。			R5(2023)年度実績額	153千円
細事業名Ⅰ	起業家育成支援事業	実	1-2-③-29	担当課	水産商工観光課
細事業名Ⅱ		実		担当課	
細事業名Ⅲ		実		担当課	
R5(2023)年度実施内容	(Ⅰ)飲食店1件の新商品開発(商品パッケージの改善)に支援した。				
進捗状況と課題	(Ⅰ)起業家等支援事業の新商品開発にかかる助成は継続して実施する。				

主な事業・取組	インターネットの活用や、合同チラシの発行、「宅配便利帳」の配布など、あらゆる方法を駆使して町内の買い物情報の充実を図る。			R5(2023)年度実績額	3,424千円
細事業名Ⅰ	雇用・労働対策事業(広尾版ハローワーク事業)	実	1-2-④-31	担当課	水産商工観光課
細事業名Ⅱ	生活支援体制整備事業(地域支援事業)	実	2-2-①-23	担当課	保健福祉課地域包括支援センター
細事業名Ⅲ		実		担当課	
R5(2023)年度実施内容	(Ⅰ)地域おこし協力隊の退任により「広尾しごと」の紙面発行は実施できなかった。 (Ⅱ)地域包括支援センターや社会福祉協議会のケアマネジャー等が、高齢者やその家族等に情報提供を行った。				
進捗状況と課題	(Ⅰ)「広尾しごと」の紙面発行に向け、地域おこし協力隊の募集を継続する。【商工観光係】 (Ⅱ)訪問時に買い物が大変だという方への情報提供や継続的な広報活動を行い更なる周知を進めていく。【在宅支援係】				

主な事業・取組	宅配サービスの拡大に加え、買い物代行サービスや移動販売・キッチンカーの導入を検討するなど、複合的な買い物支援サービスを展開する。			R5(2023)年度実績額	0千円
細事業名Ⅰ		実		担当課	水産商工観光課
細事業名Ⅱ		実		担当課	企画課
細事業名Ⅲ		実		担当課	
R5(2023)年度実施内容	宅配便利帳で町内の宅配サービスを行っている商店等を紹介し、利用を促した。また、広尾町内でコープさっぽろによる移動販売車が運行されている。				
進捗状況と課題	買い物代行や宅配サービスについて、先進事例等を参考に公共交通やドローンなどICT技術の活用も含めて検討していく必要がある。町内事業者の移動販売の実施はコスト面等から難しい状況にある。【企画防災係】				

主な事業・取組	高齢者が買い物に気軽に利用できるよう、地域内を循環する公共交通を抜本的に見直す。	R5(2023)年度実績額		9,392千円
細事業名Ⅰ	十勝地域公共交通活性化協議会分担金	実	-	担当課 企画課
細事業名Ⅱ	地域公共交通会議開催事業	実	4-2-①-18	担当課 企画課
細事業名Ⅲ	高齢者外出支援交通費助成事業	実	4-1-④-50	担当課 保健福祉課
R5(2023)年度実施内容	(Ⅰ)管内の自治体、関係機関で組織する「十勝地域公共交通活性化協議会」において交通実態調査やキャッシュレス決済導入実証、交通旅行商品の造成・販売等を行い、今後の地域公共交通のあり方を検討した。 (Ⅱ)地域会議の設置なし (Ⅲ)令和3、4年度の実証事業を経て、令和5年度から本格事業実施。75歳以上の高齢者を対象に申請者に対し、バス・タクシーで利用できる助成券を配布。			
進捗状況と課題	(Ⅰ)「十勝地域公共交通活性化協議会」は当初予定していた事業年度が終了(R3～5)したため、「地域公共交通計画推進協議会」と統合され、次年度以降も事業を進める予定となっている。【企画防災係】 (Ⅱ)地域内公共交通については6月議会の一般質問でも取り上げられており、町民を巻き込んだ検討組織を立ち上げ、持続可能な地域内公共交通のあり方を検討していく必要がある。【企画防災係】 (Ⅲ)対象者1310人のうち申請者909人で申請率69.4%、助成券交付額18,165,000円、利用額8,551,600円で利用率47.1%であった。申請者は順調に伸びているが、利用率を上げる取組みが必要。【福祉係】			

4. プロジェクトの評価（担当課における評価）

Ⅰ：プロジェクトの達成度（まちの現状と課題を解決するため、目指す方向に施策が進んでいるか）

	A 想定以上に進んでいる	評価理由	・地域おこし協力隊の退任により「広尾しごと」の紙面発行は実施できなかった。（水産商工観光課長） ・地域内公共交通のあり方について、地域公共交通会議を組織して本格的な検討を進めていく必要がある。（企画課長） ・高齢者外出支援交通費助成事業について、本格事業実施開始。（保健福祉課長） ・高齢者の交通手段の課題に対して、助成券の交付や宅配便利帳を配布する等一定の成果は見られた。（地域包括支援センター）
福	B 想定どおりに進んでいる		
企商	C 少し遅れている		
	D 大幅に遅れている		

Ⅱ：プロジェクトの有効性（プロジェクトにかかる事業の構成や規模は適切であったか、成果は有効であったか）

	A 有効であった	評価理由	・「広尾しごと」の紙面発行に向け、地域おこし協力隊の募集を継続する。（水産商工観光課長） ・高齢化の進行とともに買い物利便性向上のニーズは高まっているが、公共交通の面では、現時点において現状把握やニーズ把握に留まり、利便性向上につながる取組には至っていない。（企画課長） ・申請率69.4%とある程度の数字であり、利用者、事業所からも有効的という声があった。（保健福祉課長） ・宅配便利帳に関しては、地域包括支援センターや社会福祉協議会のケアマネジャー等が、高齢者支援の中で必要な高齢者やその家族に対し情報提供を行い、買物の手段として活用の促進を図っている。（地域包括支援センター）
福	B 概ね有効であった		
企商	C あまり有効でなかった		
	D 有効でなかった		

※プロジェクトの達成度、有効性の評価理由は、プロジェクト全体の評価であることから課長職若しくは課長補佐職が記載すること。

5. プロジェクトの総合評価

買 い 重 点 向 物 上 利 便 性 ⑦	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
	一次評価（担当課の評価）				
	C	C	C		
	二次評価（主管者会議の評価）				
	C	C	C		
	外部評価（まちづくり推進計画委員会による評価）				
	C	C	C		

評価の区分

- A 達成度、有効性、成果が大いに認められ、目標達成に向け順調に進んでいる。
- B 事業が概ね順調に進んでおり、目標年次までに達成できる見込みである。
- C 結果が表れていないが、目標達成に向け取組を進めることができている。
- D 事業の進捗が遅れており、目標年次までに達成できない可能性がある。
- E 達成度、有効性が見られず、取組内容や目標の見直しが必要な状況である。

付 帯 意 見	年 度	主管者会議の意見	まちづくり推進計画委員会の意見
	R3(2021)		
	R4(2022)		
	R5(2023)		
	R6(2024)		
	R7(2025)		

第6次広尾町まちづくり推進総合計画 前期（R3～R7）
重点プロジェクト 進捗状況確認シート

作成年月 | R 6 年 11 月

重点P	8	空き家再生プロジェクト ～空き家を徹底的に活用し、人が集まる場をつくる～
担当課		企画課、住民課、水産商工観光課、保健福祉課
目 標		日本で一番、空き家を活用できるまちをめざす！

1. 方向性

町内に点在する空き家や空き店舗を様々な用途で再利用し、人が集まり交流する拠点づくりと空き家等の有効活用を図る。

2. 概要

町内の空き家や空き店舗の増加が課題となっていることから、利用可能な空き家等をリフォームし、町外の人向けの拠点施設（ミニ道の駅、サーファーの拠点、畑付き住宅など）や、町民向けの拠点施設（飲食店、趣味の集まり、サロンなど）として有効活用することで、交流人口の増加と、町民の交流の機会の充実を図る。

3. 具体的な方法

主な事業・取組	空き家をリフォームし、ミニ道の駅（トイレを完備し、特産品を少し販売する）、サーファーの休憩所、畑付き住宅などの用途で、町外の人向けの拠点施設として利用する。			R5(2023)年度実績額	6,527千円
細事業名Ⅰ	集いの杜プロジェクト	実	1-1-③-41	担当課	農林課・企画課・水産商工観光課・社会教育課
細事業名Ⅱ		実		担当課	企画課
細事業名Ⅲ		実		担当課	
R5(2023)年度実施内容	(Ⅰ)旧野塚小学校を再生し、広尾町の林業を主体とした一次産業の体験や自然とふれあうことができる場を創出する。また、サンタランドウッズのPRや製品製造の拠点とし、新たな産業や教育文化の振興を図る。				
進捗状況と課題	(Ⅰ)令和4～5年度で改修工事を実施。一部プレオープン（カフェスペース、コワーキングスペース）した。プロジェクトにかかる地域おこし協力隊を3名任用する（令和5年度は1名任用）。【農政林務係】 (Ⅱ)空き家等の利活用を任務とする地域おこし協力隊を令和6年度に新たに任用し、取組を進める予定であるが、現時点で拠点施設の整備について具体的な構想はない状況。【企画防災係】				

主な事業・取組	週末だけの飲食店、趣味の集まり、サロンなどの用途で、町民向けの拠点施設として利用する。			R5(2023)年度実績額	0千円
細事業名Ⅰ		実		担当課	企画課
細事業名Ⅱ		実		担当課	水産商工観光課
細事業名Ⅲ		実		担当課	
R5(2023)年度実施内容	※未実施				
進捗状況と課題	(Ⅰ)空き家等の利活用を任務とする地域おこし協力隊を令和6年度に新たに任用し、取組を進める予定であるが、現時点で拠点施設の整備について具体的な構想はない状況。【企画防災係】 (Ⅱ)空家を活用したコワーキングスペースやサロンなど、検討課題となっている。【商工観光係】				

4. プロジェクトの評価（担当課における評価）

I：プロジェクトの達成度（まちの現状と課題を解決するため、目指す方向に施策が進んでいるか）

	A 想定以上に進んでいる	評価理由	・廃校舎を活用した取組は進捗が見られるが、空き家を活用した取組は未着手である。（企画課長） ・地域おこし協力隊を中心とした各課及び関係機関の連携により、想定どおりに進んでいると評価できる。（農林課長） ・空家に対する取組はまだ活発化していない。（水産商工観光課長）
農	B 想定どおりに進んでいる		
商企	C 少し遅れている		
	D 大幅に遅れている		

II：プロジェクトの有効性（プロジェクトにかかる事業の構成や規模は適切であったか、成果は有効であったか）

	A 有効であった	評価理由	・プロジェクト未着手により、現時点で有効性の評価は不可能である。（企画課長） ・集いの杜が一部オープンすることで林業・木材産業を中心として町内外の人の交流が図られた。（農林課長） ・令和5年度の評価は不可能。（水産商工観光課長）
農	B 概ね有効であった		
	C あまり有効でなかった		
	D 有効でなかった		

※プロジェクトの達成度、有効性の評価理由は、プロジェクト全体の評価であることから課長職若しくは課長補佐職が記載すること。

5. プロジェクトの総合評価

空き家再生 重点P⑧	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
	一次評価（担当課の評価）				
	C	C	C		
	二次評価（主管者会議の評価）				
	C	C	C		
	外部評価（まちづくり推進計画委員会による評価）				
	C	C	C		

評価の区分

- A 達成度、有効性、成果が大いに認められ、目標達成に向け順調に進んでいる。
- B 事業が概ね順調に進んでおり、目標年次までに達成できる見込みである。
- C 結果が表れていないが、目標達成に向け取組を進めることができている。
- D 事業の進捗が遅れており、目標年次までに達成できない可能性がある。
- E 達成度、有効性が見られず、取組内容や目標の見直しが必要な状況である。

付帯意見	年 度	主管者会議の意見	まちづくり推進計画委員会の意見
	R3(2021)		
	R4(2022)		
	R5(2023)		
	R6(2024)		
	R7(2025)		

<R4施策評価点検による政策等プロジェクト委員会からの付帯意見>

町が主体となって空き家等を取得し、改装等を行い活用するとした事業内容は実施が困難なのではないか。民間事業者の取組への補助等も含めて実施内容の見直しを検討すべきではないか。